

世界の切手に見る消防関係の切手 (8)

平岩道夫 (切手評論家)



(写真①)



(写真②)



(写真③)



(写真④)

ニュージーランドといえば、“南十字星、羊、果物のキーウィ”などで人気を集めている国。事実、同国を旅行する日本人観光客も、このところうなぎのぼりというありさま――。

そこで本号では、まずニュージーランド発行の消防活動を描いた切手(写真①～④)までの4種から紹介してみよう。

写真①～④までの4種の切手を、いま1度、よく見ていただきたい。

いずれの切手も、初期の消防活動を記録した貴重な図案。写真①は、1860年代の手动式ポンプと消防士、写真②は、1880年代の二輪のホース巻きと梯子、それに2人の消防士、写真③は、1873年代の蒸気式消火器を搭載した馬車と消防士、写真④は、1888年代の化学消火器を搭載した馬車と消防士をそれぞれ描いた“変わりダネ”切手と、人気を集めている。

さて、右側のタテに1列5種(写真⑤～⑨)は、何かと話題を賑わせているソ連発行の切手である。

写真⑤は、3頭の馬にひかれる消防士たち、写真⑥は、4頭の馬がひく蒸気スタイ



(写真⑤)



(写真⑥)



(写真⑦)



(写真⑧)



(写真⑨)

ル、写真⑦と⑧は、馬車から自動車に進歩、写真⑨は、さらに近代的な梯子まで頭上に搭載している。

余談ながら、5種の切手の左下に見られる“СССР”とは国名のことで、“ソ連”ということになる。発音はエル、エル、エル、エスという。